

大分県立芸術文化短期大学附属図書館

図書館だより

No. 20
2013.Apr.



The Oita Prefectural College of Arts and Culture Library Bulletin



表紙作品『憧』
後藤 峰子 (1985年美術科卒業)

正方形の画面に横臥した人物を大胆に真上から捉え、スカートと背景を模様で埋め尽くした装飾的な表現の日本画作品です。

Contents

- 1 新入生にすすめるこの一冊
- 2 視聴覚室へ行こう！
- 3 学生選書ツアー
- 4 こんな本が新しく入りました
- 5 部門別年間ランキング

新入生にすすめるこの一冊



『吾輩は猫である』

夏目漱石 著 1961年（新潮文庫）

美術科
八木 明知
先生

夏目漱石の名前を聞いた事のない日本人はほとんどいないでしょう。彼は以前紙幣の顔に使われていた人物で、威厳があり、難しい作品を書いた人だろうと思い、読んだ事が無かったのですが、友人に勧められこの作品を読む事にしました。

冒頭から、想像していた夏目漱石とはまるでかけ離れた「笑いの世界」に引き込まれ、あっという間に読み終えてしまいました。「ユーモア」で作品が貫徹され、読みながら笑ってしまうので人前では恥ずかしくて読めませんでした。

こんなに「可笑しい」文学作品にそれまで出会った事はありませんでしたが、この笑いのほとんどが、文明開化から日露戦争の勝利へいたる当時の日本の社会世相に対する「皮肉」であり、またその中で「芸術の意味」を問いかける彼の視点にすっかりはまってしまったのです。また、彼にとっての批判の「対象」が、百年以上も時を経た「現代の日本社会」と通じていることも大きな魅力でした。この作品に通底する作者の「批判精神」には、裏側に秘めたとても深い「人間愛」を感じます。

「文学」と「美術」、どちらも「芸術」とよばれます。いったい「芸術」とは何なのでしょう…

（やぎ あきとも／絵画）



『青の歴史』

ミシェル・パストゥロー 著 松村恵理・松村剛 訳 2005年（筑摩書房）

国際総合学科
高瀬 圭子
先生

あなたの一番好きな色は何ですか？

そう尋ねられて思い浮かぶ色は人それぞれでしょうが、私の答えは青、そして現代のヨーロッパ人が最も好む色も青だそうです。

でも、昔からずっと、青は多くの人のお気に入りの色だったのでしょうか？

そんな問題も含めて、青という色の歴史を探求したのが、本書を著したフランスの歴史家、パストゥローです。彼は、

ある色が社会の中でどのように用いられ、どのような意味を与えられてきたか、という観点から、色の歴史を書こうとしました。そこで参照された資料は、染料、衣服、視覚に関する理論、色彩を表す語彙、文学作品、絵画、象徴など、実に幅広い領域に及んでいます。

その結果、西欧において青が積極的に用いられ始めたのは、ようやく12～13世紀になってからのことであったという事実が明らかになりました。この時期に青が聖母マリアやフランス王家の色になったことが、青の地位向上に貢献したといわれます。その後、青がヨーロッパ全体で好まれる色になるまでの展開は本書の叙述にゆづりますが、なかなか意外な青の歴史をたどる中で、読者はシャルトル大聖堂のステンドグラスやフェルメールの絵画の青にも出会えます。第1級の研究成果を通して、ヨーロッパ文化の深層、その美と歴史の一端に触れることのできる、奥深い内容の書物です。

（たかせ けいこ／西洋史）



『はなちゃんのみそ汁』

安武信吾・千恵・はな 著 2012年（文藝春秋）

音楽科
清水 万敬
先生

皆さんは、何歳まで生きることを想定して毎日を過ごしているのでしょうか？

この本は、私の知人から戴きました。その知人の教え子だった方のドキュメンタリーです。音楽教師をしていた方が、癌を患い、生きるという事を前向きに実行された話です。そこには、夫と子供、そして多くの方々の支えがありました。

健康な生活のためには、体のための栄養、そして心のための栄養が必要です。前者は、食育とも通じ玄米和食と睡眠。後者は、音楽（この中では筆者が音楽に携わっておりました）。また笑いと免疫力。

癌が見つかったから結婚をし、そして生まれた女の子がはなちゃん。抗がん剤の副作用と再発の恐怖と戦いながら授かった子供です。決断するには、言葉には言い尽くせないほど本当に多くのことを考えた事でしょう。自分の命と引き換えてもいいと。その子の成長と共に治療が続きます。まずは、生きることは食べること。5歳のはなちゃんに包丁を持たせ料理を作り、家事にも参加して貰います。辛い治療も受け入れ、何が何でも娘のために生きる。

もう、涙が出てきます。200ページで、字も大きく、一日で読めます。皆さんには、是非とも手にとって読んで頂きたいと願っています。

（しみず かずのり／ホルン）



『読書と社会科学』

内田義彦 著 1985年（岩波新書）

情報コミュニケーション学科
安倍 尚紀
先生

私の大学院時代の恩師の一人である菅野仁先生（宮城教育大学）が、先日発売されたベストセラー『18分間集中法』の中で参照するくらいで、古びない本でもあります。

最初の1章「読書と社会科学」は、読書会での招待講演をもとに口語体で書いてある「読書会論」で、読み切り可能です。読書会をしようとしている人々たちに対して読書観について問いかけながら進むというおもしろい形式をとっています。

読書会を続けるための秘訣である「楽しさ」は、いったいどんな要素から生まれるのか。また、「情報として読む」と「古典として読む」とは、どういうことか。著者が社会科学論まで射程に入れて書いている本書自体が、「古典として読む」べき典型例で、たった一度、読んだだけでは指摘できないくらい多くの伏線を張り巡らされています。

本書は新書版で、とても薄い本です。その中の第1章だけでも十分なので、ぜひ、一読してみたいと思います。興味をもった人は、アドラー著『本を読む本』へと進んでみてください。

（あべ なおき／社会学）





学 生 選 書 ツ ア ー

学生が図書館に置きたい本を選ぶ「学生選書ツアー」(毎年2回実施)が昨年11月、大分市の書店で行われました。参加者が選んだ本のうち特におすすめしたいものについてコメントを寄せてもらいました。今回選ばれた計100冊の本は学生選書コーナーに並べていますので、ご覧になってください。

学生選書ツアーに参加して

国際文化学科 1年 戸谷彩乃

わたしは、本が大好きで時間さえあれば本を読んでいます。この選書ツアーは、わたしの読書好きを知っている担任の永田先生から勧められて申し込みをしました。最初は図書カード3000円という参加特典に惹かれたことは確かですが、実際に選書ツアーに参加することが決まり、事前に本屋さんでどのような本を選ぶのかをいろいろ考えたとき、久々に様々なジャンルの本に出会うことができるかもしれない、心躍るひとときを過ごすことができました。本屋さんにいる時間、本当にあっという間で、時間内に選書することは思った以上に大変でした。

でも、わたしが選書した本が芸短生に読んでもらえるとなるとなんだか光栄な気持ちさえしました。

たくさんの芸短生が、私の選んだ本を手に取り読んでてくれればと願っています。後日に行われた意見交換の場も、他の選書ツアー参加者と普段話さないテーマについて意見交換することができ、出版関係の職に就きたい私にとってとても有用なものでした。今回選書ツアーに参加して、改めて本の素晴らしさに気づくことができました。

参加者が特にすすめる本のコメント

美術科 1年 丸山 葵

『乙女のクラシック』

高野 麻衣 著
(新人物往来社)



かわいい装丁とあなどるなかれ!意外にも(?)本格的な内容と付属のCDで、音楽史を深く楽しく学ぶことができます。扱われている時代も中世〜現代まで幅広く、コラムには有名な作曲家の裏話なども紹介されているため、これからクラシックを学びたい!という方の入門編にも、もっと深く知りたい!という人にもぜひオススメしたい一冊だと思います。

『水瓶』

川上未映子 著
(青土社)



著者の文章表現の美しさがたっぷりと堪能できる一冊ではないかと思えます。川上さんの著書はこれまでも何冊か読んできましたが、独特な文章表現やリズム感のある文体は読んでいてとても楽しくあきません。今回も、そんなきらきら、わくわくでいっぱい川上さんワールドが全開の本になっていると思います。ぜひ読んでみてください。

美術科 2年 古谷 仁美

『それからのパリ』

雨宮 塔子 著
(祥伝社)



パリの空気感・穏やかな時間の流れが本書から感じられます。親しみやすい文面で著者の暮らしが書かれ、少し休憩したいと思った時に自分の生き方について改めて考えさせられる部分が多くあります。そして、何より全てのことに心から楽しむことが大切なのだと気づかせてくれるそんな一冊です。

『人生が楽しくなる絵画の見かた』

大橋 巨泉 著
(ダイヤモンド社)



「絵画の見かた」と題される本は多くありますが、本書は難し過ぎず著者の独特な語り口がとても読みやすいものとなっています。曖昧な言い方でなくハッキリと言い切っている部分が読んでいて爽快です。今まであまり関心がなかった画家についても本書を読めばきっと惹かれるはずですよ!

美術科 2年 外山 楓

『松岡修造の人生を強く生きる83の言葉』

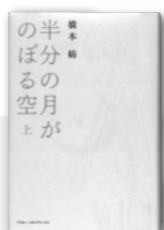
松岡 修造 著
(アスコム)



「今日からお前は富士さんだ!」「崖っぷちありがとう!」「みんな竹になろうよ」世界一熱い男松岡修造は、本当は消極的で弱い人間です。だから辛い時や苦しい時、前向きな言葉で自分を鼓舞し続けてきました。彼を支え続けてきた激励の言葉が83凝縮された渾身の一冊。あなたを元気づける一言ときっと出会えます。

『半分の月がのぼる空 上』

橋本 紡 著
(アスキー・メディアワークス)



世界よりも、自分よりも、大事だよ。急性肝炎で入院となった高校生・戒崎裕一はそこで心臓病を患う少女・秋庭里香と出会う。わがままで狡猾な彼女に振り回されつつ、彼女に思いを寄せていく戒崎は一。「いつか終わりの来る永遠」をテーマにしながらも優しく前向きな等身大の彼らに心がじんわりと温くなる一冊です。

音楽科 1年 十亀真理子

『イングリッシュ・モンスターの最強英語術』

菊池 健彦 著
(集英社)



英語上達のポイントは単語をどれだけ覚えられるか!ノルマの3分の1も達成できず、34才で会社を辞めた著者。何もしない日々とうんざりし、何の気なしに始めてみた英語の勉強。(ヒマつぶし)そして7年にも及ぶ「ひきこもり留学」の末、彼はTOEIC990点満点を24回もとるイングリッシュ・モンスターになった(変な人です)!

『アロマセラピーの教科書』

和田 文緒 著
(新星出版社)



アロマセラピーの歴史は古く、古代エジプトのミイラ作り、旧約聖書、新約聖書にも登場します。精油の一滴には、植物のもつエネルギーが凝縮されています。ちょっと疲れたな...という時、手軽にリラクゼーションできるアロマセラピーは忙しすぎる現代にぴったりです。ハウスキーピングやマッサージのやり方も掲載されていて、日々の暮らしに役立つ一冊です。

専攻科音楽専攻 2年 吉野真智子

『『赤毛のアン』の人生ノート』

熊井 明子 著
(岩波書店)



幸せに生きる為のヒントを「赤毛のアン」のストーリーから見だし解説している一冊です。ストーリーを知っている人もそうでない人も、アンの空想の捉え方など、作者が読み解く視点が面白く、新しいアンの見方を発見できます。これを読んだ後にオリジナルを読み返すのもオススメです。

『働く女性が知っておくべきこと』

坂東 真理子 著
(角川書店)



いつかは結婚して子育てもしたいけど仕事はどうすればいいのか。専業主婦になって旦那さんの稼ぎだけで果たして幸せに暮らして行けるのか。この本は厳しい現代社会における女性の生き方のヒントが書かれています。普通の女子大生の本音に対するキャリアウーマンのアドバイスという入りやすい構成です。

国際文化学科 1年 清杉 菜奈

『働く理由』

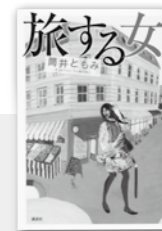
戸田 智弘 著
(ディスカヴァー・トゥエンティワン)



「人は何のために働くのか」「自分のやりたいことは何だ?」「仕事の好きと相性」など職業を決定する際、だれもが一度は疑問に思っていることを「人生の先輩たち」の名言とともに考え、そして自分自身を見つめ直すことができる一冊です。一つ一つの名言にとっても勇気づけられます。就活生にとってもオススメの一冊です!

『旅する女』

筒井 ともみ 著
(講談社)



ある一人の「旅行コーディネーター」の女性の「死」をきっかけに4人の女性が知り合い、そして新しい人生へと動き出します。さまざまな生き方の女性がいるので女性として共感するところも多いです。旅に出たくなるような気持ちにしてくれる一冊になっています。

国際文化学科 1年 戸谷 彩乃

『老ピノッキオ、ヴェネツィアに帰る』

ロバート・クーヴァー 著
(作品社)



小学生のころ「ピノッキオの冒険」というおそろく誰もが知っている本をわたしも読んだことがあります。木の人形であるピノッキオが、様々な苦難を乗り越えて人間へと変化する物語です。この本は、ピノッキオが晴れて人間となった物語です。人間となったピノッキオは一体どんな少年になるのか気になるところです。

『封印されたグリム童話(「削除」された最も残酷でグロテスクな33話)』

桑名 怜 訳
(宝島社)



グリム童話といえば赤ずきんやシンデレラといった結末がハッピーエンドのものをわたしは想像します。しかし、グリム童話はそれだけではないことを知っていたでしょうか。夢見る子どもたちには決して読み聞かすことのできないグロテスクな物語が収録されています。グリム童話の違った一面を見てみたい人にはおすすめです。

情報コミュニケーション学科 1年 池田真実子

『ある一日』

いしい しんじ 著
(新潮社)



この作品は、主人公の石井夫妻が出産予定日を迎えた朝から出産を終るまでのことを書いています。奥さんの園子さんが43歳で初の出産をするシーンは、読者である私も応援したくなりました。主人公の名前と作者の名前が一致しているので、エッセイと物語が混ざっているような不思議な話でした。

『Q-pot. Sweet Collection Book』

ワカマツ タダアキ 著
(パイ・インターナショナル)



この本が本屋さんで販売されている時、ビニールのカバーがかけられていて本を開くことができませんでした。題名もはっきり書かれていませんでした。この本の内容がとても気になったことと、表紙の可愛さにやられてこの本を選びました。中身もとても可愛らしいので、ぜひ手に取ってみてください。

視聴覚室へ 行こう！

バルタザール、 バルタザール・・・



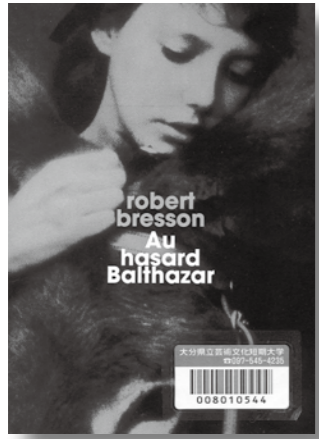
国際総合学科
永田 道弘 先生

今回はフランスの映画作家ロベール・ブレッソン（1901-1999）について紹介したいと思います。表題のバルタザールというのは、彼の代表作である『バルタザールどこへ行く』からきています。この作品には一頭のロバと少女が登場しますが、このロバの名前がバルタザールとされています。これはもともと新約聖書に出てくる東方の三博士の一人の名前なんです。このことからわかるようにブレッソンという監督はカトリックの信奉者で、この『バルタザールどこへ行く』にも彼の宗教的な世界観*が滲み出ています。この世界観を簡単にいえば、「この世で起こることはすべて神の恩寵**であり、どのような偶然でも、それを神の意志として受け入れなければならない」となるのでしょうか。このような考え方はキリスト教の中でもジャンセニスムとよばれる流派のもので、ブレッソンもこのジャンセニスムの思想に大きく影響されています***。

キリスト教とは縁遠い生活を送る私たちにとっては、どうにもリアリティのない考え方もかもしれません。仏教的な「無常」や「諦念」とも少し違います。運命を受け入れるにしても、それはあくまで人間の自由意志によらなければならないのです。パトスといってもいいかもしれません。これはパッション（情熱）の語源であるギリシア語で「受難」や「受動的な状態」を意味することばです。どこの国の元首相が言った「人生いろいろ」に代表されるオジサン的な人生観とは根本的に違います。もつとずつと厳しいものです。

『バルタザールどこへ行く』の少女マリーは、若さゆえの無軌道な生活に自ら身をゆだねることで人生の坂道を駆け落ちていきます。ただ、彼女にはそれに抗う様子があまりみられません。彼女の転落を静かにみつめるバルタザールも様々な人間の欲望にほんろうされつつも、この過酷な運命を黙々と受け入れます。この二つの受難をブレッソンは淡々と描いています。

パッションという、私たちはどうしても苦悩の色を浮かべる俳優の表情とか心情を吐露するような台詞回しを考えがちです。ところが、ブレッソン映画の俳優たちは無表情で抑揚をつけずに言葉を発します。彼らの演技はぶっさらぼうな印象さえ与えますが、実をいえばブレッソンは俳優たちに演じることを禁じているのです。このような演出は一見すると不自然に映るかもしれませんが。しかしよくよく考えてみれば、私たちは普段の生活でそれほど表情が豊かであるわけでもありませんし、ドラマチックな言葉を使ったりもしません。私たちが自然らしいと信じているものは、テレビや舞台を観ることで作られた単なるイメージにすぎないのです。俳優の個性を極力排した極めて禁欲的なブレッソンの演出の背景に、神の意図は小さな人間の理智には到底おぼえないものである（故に人間の自由意思はただそれを受け入れることしかできない）といったジャンセニスムの思想があることは明らかです。



DVD
『バルタザールどこへ行く』
請求記号 DVD / 681

『バルタザール』に限らずその他のブレッソン作品に共通して、手や足のクローズアップが多用されている点を指摘できると思います。特に『スリ』では、スリたちの見事な手さばきがクローズアップでとられており、それは俊敏に動く手と手のパレーを観ているかのようです。ブレッソン作品における手や足のショットは個性が払拭されたものの美をあらわしています。また、ブレッソンは扉が閉まる音やコツコツといった靴の音など、物の立てる音を強調しています。ブレッソンは身の回りの何げない物にも神の恩寵が満たされていることを観客に感じてほしいのかもしれない。

- 世界観：世界のあり方に対する何かしらのまとまった見方。
- ** 恩寵：神の無償の愛。
- *** ブレッソンは特にブレイズ・パスカル（1623-1662）を通じて、ジャンセニスムに触れることになります。「パスカルの原理」で有名な人ですね

（ながた みちひろ / 仏文学）

視聴覚室利用ガイド

- ☆ 視聴覚室（2階）ではオペラやクラシック、映画などを鑑賞することができます。
- ☆ 視聴機器を入れ替え、新しい映画のDVDも多数いれていますのでご利用ください。
- ☆ 友達と一緒に観たい場合は大型テレビのあるグループ学習室をご利用ください。
- ☆ DVDは貸出できませんが、CDは借りることができます。

利用時間 12：30～19：00（月曜～金曜）

こんな本が新しく入りました

平成24年10月から25年2月までの新着資料の中から一部紹介します。DVDは館内で鑑賞できます。

選定 学科名	書名	編著者名	図書ラベル	配置場所
美 術 科	家具・インテリア・建築のデザイン基礎：北欧の巨匠に学ぶ図法	鈴木敏彦〔ほか〕	501.8/Su96	2 閲
	イラストを使ったデザイン		674.3/P61	2 閲
	現代彫刻論：物質文明との対峙	中原佑介	704/N33/6	1 閲
	アート・ヒステリー：なんでもかんでもアートな国・ニッポン	大野左紀子	704/O67	1 閲
	Nationalgalerie	Thomas Demand	748/D56	1 閲
科	日本の染と織	後藤誠〔監督〕	BD/19/1-6	DVD コーナー
	ブリューゲルの動く絵：スペシャル・コレクション	レフ・マイエフスキ〔監督〕	BD/18	DVD コーナー
音 楽 科	Études, Livre I et II	Debussy	B1.2/De/Du	1 閲
	Konzert für 2 Klaviere und Orchester, op. 88a	Bruch	B7.1/Bruc/NS	1 閲
	Piano concerto no. 2 in C minor, op. 18	Rachmaninov	B9.1/Rak/Koll/35-35/35	1 閲
科	バッハ口短調ミサ曲	クリストフ・ヴォルフ	765.3/W84	1 閲
	ハイドン & フンメル：トランペット協奏曲 他	ハンス・ガッシュ	C/7665	視聴覚室
	野ばら、魔王：シューベルト名歌曲集	フォン・オッター、ターフェル〔ほか〕	C/7668	視聴覚室
	モーツァルト：オペラ・アリア集	キャスリーン・バトル	C/7673	視聴覚室
国 際 文 化 学 科	太平洋諸島入門	太平洋学会	297/Ta22	指定書 コーナー
	多文化主義のアメリカ：揺らぐナショナル・アイデンティティ	油井大三郎、遠藤泰夫	361.5/Y97	2 閲
	新しい時代の秘書ビジネス論	全国大学実務教育協会	336.5/Z3	2 閲
	はじめての国際観光学	山口一美、椎野信雄	689/Y24	2 閲
	そこに僕らは居合わせた：語り伝える、ナチス・ドイツ下の記憶	ゲードルン・パウゼヴァング	943.7/P28	3 閲
	ゲーテの恋：君に捧ぐ「若きウェルテルの悩み」	フリップ・シュテルツェル〔監督〕	DVD/995	DVD コーナー
情 報 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 学 科	裁かるるジャンヌ クリティカル・エディション	カール・Th・ドライヤ〔監督〕	DVD/973/1	DVD コーナー
	だまされる脳：バーチャルリアリティと知覚心理学入門	日本バーチャルリアリティ学会心理研究委員会	141.2/N71	3 閲
	ドイツ・フランス共通歴史教科書：1945年以後のヨーロッパと世界	ペータ・ガイス〔監修〕	230.7/G32	3 閲
	農村女性の社会学：地域づくりの男女共同参画	藤井和佐	361.76/F57	2 閲
	ツイッターの超プロが教えるFacebook仕事術	樺沢紫苑	675/Ka11	2 閲
	スポーツの世界地図	Alan Tomlinson	780.2/To59	2 閲
附 属 図 書 館	仕事の流儀：仕事でこそ人は育つ	日本放送出版協会	DVD/480/13	DVD コーナー
	人形浄瑠璃文楽名演集 通し狂言 仮名手本忠臣蔵		DVD/1004/1-4	DVD コーナー
	戦後史の正体：1945-2012	孫崎享	210.7/Ma29	3 閲
	就職とは何か：「まともな働き方」の条件	森岡孝二	366.2/Mo62	資格・検定 コーナー
	137億年の物語：宇宙が始まってから今日までの全歴史	クリストファー・ロイド	450/L76	2 閲
	人と芸術とアンドロイド：私はなぜロボットを作るのか	石黒浩	548.3/I73	2 閲
館	論文の教室：レポートから卒論まで 新版	戸田山和久	816.5/To17	資格・検定 コーナー
	a b さんご （第148回 芥川賞受賞作）	黒田夏子	913.6/Ku72	3 閲
	何者 （第148回 直木賞受賞作）	朝井リョウ	913.6/A83	3 閲

部門別年間ランキング

(2012年4月～2013年2月集計)

図書

▼図書館の分類（日本十進分類法）にもとづき、各分野で一番貸出の多かった図書を発表します！

0 総記	デザインの組み方	甲谷一 著
	厳選技法集 Photoshop創作工房	MdN編集部 編
	プロの技に学ぶ! Photoshop技法撰書	MdN編集部 編
1 哲学	10代にしておきたい17のこと	本田健 著
2 歴史	ハプスブルク家	江村洋 著
3 社会科学	大学で勉強する方法	A・W・コーンハウザー 著 D・M・エナーソン 改訂 山口栄一 訳
4 自然科学	眠れなくなる宇宙のはなし	佐藤勝彦 著
	 <p>ひとは何故宇宙の謎を解き明かしたくなるのか。祖先の時代から考え続けてきたテーマを、宇宙物理学者・佐藤勝彦さんが解説しています。古代インドの宇宙観から、宇宙をめぐる宗教裁判、相対性理論、最新のブレーン宇宙論まで多岐にわたり解説されています。眠れない夜のお供にはうってつけの1冊になっています。</p>	
5 技術・工学	魔法のどうぶつえん 旭山動物園写真集	岩合光昭 写真・文
	フィンランドのマリメッコ手帖	バイインターナショナル 編
	ロンドンおしゃれガールズスタイル	ジュウ・ドウ・ボウム 著
6 産業	欲しいほしいホシイ	小霜和也 著
	 <p>ソニーの「プレイステーション」や、キリン「一番搾り」、などでしごジャパン出演のファミリーマートのCM等の広告を手がける小霜和也さん初の著書です。ヒトのホンノウや心のメカニズムを手がかりに、消費者の「ほしくなってしまう理由」「買いたいと思うワケ」を解き明かしていきます。2010年度学生選書ツアーで入ってきた一冊です。</p>	
7 芸術・美術	リキテックス大全	美術出版社編集部 編
8 言語	2012年度版 英検2級 過去6回全問題集	旺文社 編
	第1位 鍵のない夢を見る	辻村深月 著
	 <p>第1位は第147回木賞受賞作の「鍵のない夢を見る」でした。地方都市を舞台に5つの「犯罪」に巻き込まれる女性たちを描いた短編集です。辻村深月さんは思春期の少女少女の心の機微を巧みに捉える作風でお馴染みの作家ですが、今回は成人女性を主役に据えた意欲作となっています。収録されている短編のひとつ「仁志野町の泥棒」は昨年11月に開いた図書サークルの読書会テーマとしても取り上げられました。</p>	
9 文学	第2位 県庁おもてなし課	有川浩 著
	第3位 舟を編む	三浦しをん 著
<p>★その他</p> <p>「桐島、部活やめるってよ」朝井リョウ著 「死亡フラグが立ちました！」七尾与史著 「PK」伊坂幸太郎著 「蛇にピアス」金原ひとみ著 なども人気の高かった小説でした。</p>		

雑誌

▼貸出の多かった雑誌を第3位まで発表。閲覧では大分のタウン情報誌「シティ情報おいた」や、「ダ・ヴィンチ」、「日経WOMAN」も人気の雑誌です。

第1位		<p>装苑 図書館で永く愛読されているモード・ファッション誌が堂々の第1位でした。日頃の閲覧も多い雑誌です。ファッション誌ですが、アート色の強い内容になっているので、写真集を眺めるような感覚で読めるのが特徴です。「SEDA」などの他の女性ファッション誌も雑誌コーナーでよく読まれています！</p>
第2位		<p>美術の窓 人気作家が明かす技法講座や、毎月の公募展、ギャラリー情報、日本美術や現代美術に関する連載が充実の美術系芸術誌です。昨年、特に貸出の多かった特集は「画材大百科(4月号・写真左)」と「ぬくもりの表現(6月号)」でした。</p>
第3位		<p>美術手帖 国内外のアートシーンをいち早く知ることのできる最重要・美術情報誌です。「村上隆」や「奈良美智」…なんと知らない絵や名前だけでなく一体どんな人なちなんだろう。そんなアートにまつわる疑問を、毎月200P超える誌面の半数を使って特集が組まれています。</p>
<p>図書館からのPlus One!! "Newton"</p> <p>「必ずある!水と生命の惑星」、「宇宙で最もミステリアスな物質 ダークマター」、「南海トラフM9」など、毎号気になる最新科学をテーマに、豊富なグラフィックを交えながらわかりやすく解説!科学オチンチンの方でも理解が深まること間違いなしのサイエンス情報誌です。宇宙の爆発風景や動物の接写など、日常で見ることのできない貴重な写真も必見!</p>		

映画

▼図書館内視聴覚室またはグループ学習室で視聴の多かった映画DVDを第3位まで発表します! (※CD以外の視聴覚資料の館外貸出は行っていません)

第1位		<p>八日目の蟬 (日本・149分) 角田光代さん原作。井上真央さん、永作博美さんダブル主演の日本映画が第1位でした。学科を問わず、沢山のの方に観られた映画でした。私を育ててくれたお母さんは誘拐犯だったー不倫相手の子供を誘拐した女に4年間、育てられた少女。少女は大人になり、「母」との思い出を振り回しながら、自分の人生を見つめ直す旅に出る。</p>
第2位		<p>コクリコ坂から (日本・91分) スタジオジブリ・宮崎吾郎監督が手がけた製作アニメーションです。太平洋戦争から18年。16歳の主人公・海と、17歳の後の愛と友情を、歴史ある校舎を舞台に逞しく描かれています。馴染みのない時代のはまのみに、見ているとどこか懐かしい、胸がきゅんとする爽やかなお話です。</p>
第3位		<p>パプリカ (日本・90分) 他人の夢を共有できる装置「DCミニ」が盗まれ、悪夢を見せ精神を崩壊させる事件が多発。犯人の正体を探るべく、主人公・敦子は夢探偵「パプリカ」に変身、夢のなかへ侵入していく。筒井康隆さん原作。今敏監督の遺作となったアニメです。平沢進さんの魔可不思議な音楽が見る者をよりいっそう夢の世界へ誘ってくれます。</p>
<p>図書館からのPlus One!! "ぼくのエリ 200歳の少女" (瑞典・120分)</p> <p>図書サークル選定のスウェーデンのヴァン・イアムムービー。12歳の孤独な少年・オスカールは、隣の家に引越して来たエリと出会う。同じ頃、街では不可解な失踪や殺人が次々と起き始め…。北欧の空気を感ずる切ない映画です。実は邦題にある重大な誤訳があります。本編を見ればこの意味がきっと分かるはずです…</p>		

大分県立芸術文化短期大学附属図書館
図書館だより No.20

発行日 2013年4月1日発行
編集・発行 大分県立芸術文化短期大学附属図書館
住所：〒870-0833 大分市上野丘東1番11号
電話：(097) 545-4235
Webサイト：http://www.oita-pic.ac.jp/library/
図書館キャラクターデザイン：若杉郁子

開館時間

9:00～19:00
(長期休業期間中は9:00～17:00)

4月から図書館ホームページがパワーアップします!ぜひアクセスしてみてください。

ほん太の
つぶやき

